HULFT
CASE STUDY

HULFT
HULFT-DataMagic

株式会社りそな銀行

りそな銀行
RESONA

りそなグループの大規模な「新情報系システム」を支えるデータ基盤をHULFTおよびHULFT-DataMagicで実現 円滑な銀行業務に欠かせない高信頼のデータ伝送が可能に

HULFT ユーザー事例

HULFT（TCP/IP 企業内・企業間通信ミドルウェア）
HULFT-DataMagic（データ変換・ETL ツール）

株式会社りそな銀行

りそなグループの大規模な「新情報系システム」を支えるデータ基盤をHULFTおよびHULFT-DataMagicで実現 円滑な銀行業務に欠かせない高信頼のデータ伝送が可能に

価値あるサービスの提供を通じ「リテールNo.1」の金融サービスグループを目指す、りそなグループ。りそな銀行を中心にグループの総力を挙げ、お客さま価値の最大化に取り組んでいる。その事業基盤の強化を目指し、同グループはメインフレームベースの情報系システムを刷新。2014年11月より、オープン基盤による「新情報系システム」の稼働を開始した。そのデータ連携を支えているのが、HULFTおよびHULFT-DataMagicで実現した「データハブ基盤」である。勘定系システムとのコード変換や大容量のデータ伝送を担うデータハブ基盤は、ミッションクリティカルな銀行業務の中で重要な役割を担っている。

株式会社りそなホールディングス
IT 企画部 グループリーダー
株式会社りそな銀行
システム部 グループリーダー
亀岡 修氏

株式会社りそなホールディングス
IT 企画部 グループリーダー
株式会社りそな銀行
システム部 グループリーダー
佐々木 隆一氏

User Profile

りそな銀行
RESONA

株式会社りそな銀行

本社
大阪市中央区備後町２丁目２番１号

設立
1918年5月

資本金
2,799億円（2015年３月末現在）

従業員数
9,265人（2015年３月現在、単体）

事業内容
りそなグループは、金融持株会社りそなホールディングスの傘下にりそな銀行、埼玉りそな銀行、近畿大阪銀行の３つの銀行を有する金融グループ。フルラインの信託・不動産業務も展開し、「お客さまの喜びがりそなの喜び」の基本姿勢のもと、お客さまに最適な商品・サービスをスピーディーに提供する「新しい金融サービス業」としてのビジネスモデルを構築。

2015年6月25日にグループの再生と成長を支えてきた公的資金を完済し、持続的成長への新たな一歩を踏み出したりそなグループ（りそなホールディングス、りそな銀行、埼玉りそな銀行、近畿大阪銀行）。これに先駆け、同グループは2015年2月に次なる10年に向け、新たな「中期経営計画」を発表。攻めの経営へのマインドチェンジを図り、「リテールNo.1」の実現に向けた顧客本位のサービス強化に取り組んでいる。

情報系システムのオープン化に伴いシステム間のデータ伝送が課題に

この成長戦略を推進するためには、ITの基盤強化が不可欠だ。しかし、グループの業務を支える情報系システムはメインフレームで構築されたもの。稼働から約25年間が経過し、その間に経営体制や事業環境は大きく変化。金融商品の多様化など、銀行業務の複雑化も加速している。

事業環境の変化に対応するため、周辺の業務システムは柔軟性の高いオープン化が進んでいたが、中核となる情報系システムはメインフレームのまま。「古いIT資産が残存するほか、データ活用のための情報提供手段が標準化されていないといったシステム面の非効率性が大きな課題になっていました」とりそな銀行の亀岡修氏は振り返る。

課題解決のため、同グループは情報系システムの刷新を計画。グループのITインフラの構築・運用をサポートするNTTデータおよびNTTデータソフィアの協力のもと、情報系システムをオープン化・スリム化する「新情報系システム」の実現を目指した。「これにより、情報活用が進み、ローコストオペレーションも加速します」と亀岡氏は狙いを語る。

しかし、新情報系システムの実現には乗り越えるべきハードルがある。その1つが、新情報系システムと他システムとのデータ伝送を担う「データハブ基盤」の実現手段だ。

「情報系システムは勘定系システムから顧客取引にかかる大容量のデータを取込み、さまざまなシステムに情報提供・連携し、決算情報なども扱うミッションクリティカルなシステム。データ伝送には高い信頼性・安定性が求められます。また周辺の業務システムはオープン化が進んでいましたが、勘定系はメインフレームベース。多様な文字コードやデータ形式に対応できる必要があります」とりそな銀行の佐々木隆一氏は課題を述べる。

FTPベースでデータ伝送の仕組みを構築することも可能だが、多様なフォーマット変換が必要になる上、通信トラブルなどによるエラー処理も考慮しなければならず、仕組みが煩雑になる。それを一から作り込むのはリスクが大きい。

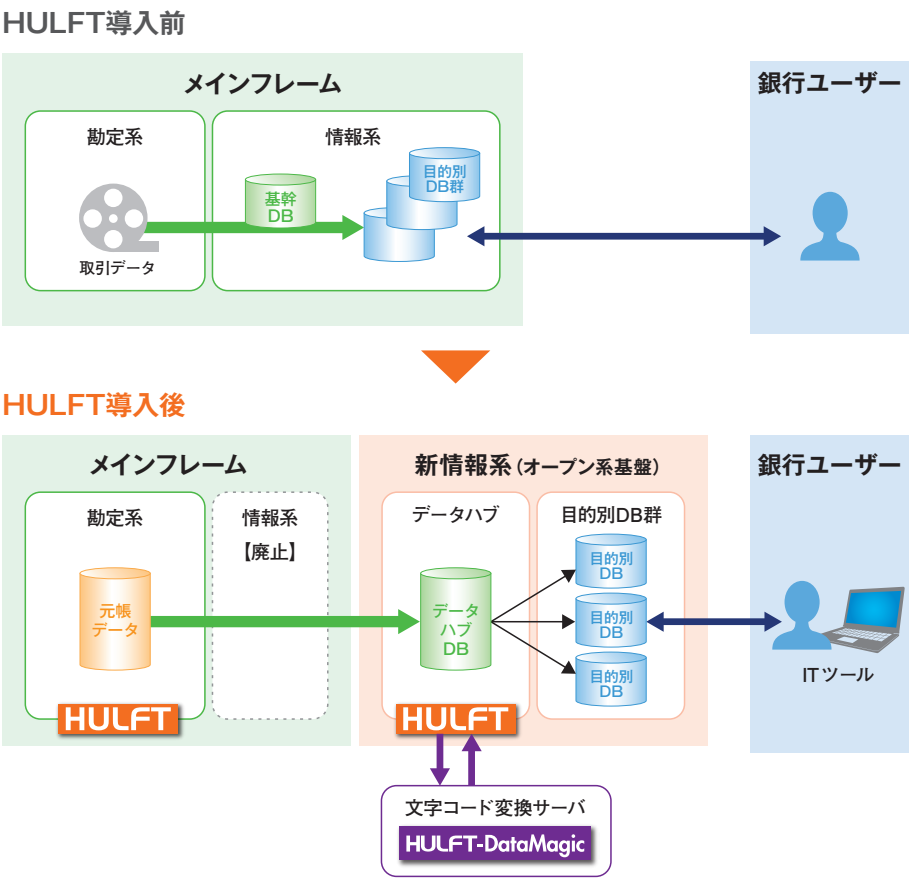
多様な文字コード変換に対応し遅延のないデータ伝送が可能

高い信頼性・安定性を確保し、リスクの少ないデータ伝送の仕組みを実現するにはどうすべきか——。その解決策に採用したのが、セゾン情報システムズのデータ加工・変換ツール「HULFT-DataMagic」およびファイル転送ミドルウェア「HULFT」である。

HULFT-DataMagicについては、多様なフォーマットに対応し、データの抽出から加工・変換、そしてデータベース連携までを含めた一連のプロセスを自動化できる点を評価した。金融機関をはじめとする豊富な導入実績も導入を強く後押しした。

変換処理も高速だ。「メインフレームベースの勘定系とオープン系の新情報系システムでは文字コード変換が必要になります。この変換処理を30分以内で行えることを必須要件としていましたが、HULFT-DataMagicは数百GBにおよぶデータの文字コード変換でも、この要件を満たし、新情報系システムを支える基盤として十分に満足できるものでした」と佐々木氏は評価する。

HULFTに関しては、これまでの実績とHULFT-DataMagicとの親和性の高さを評価した。同グループでは多様なシステムのデータ連携にHULFTを活用している。「以前からHULFTを使ってきたため、その信頼性は高く評価しています。HULFTと組み合わせれば、HULFT-DataMagicで文字コード変換を行ったデータを、他のシステムにシームレスに伝送できます。エラー発生時には転送リカバリ機能もあり、運用の手間も軽減できます」（亀岡氏）。



りそなグループの「新情報系システム」の概略イメージ

メインフレームベースだった旧情報系システムをオープン系基盤で再構築し「新情報系システム」を実現した。HULFTおよびHULFT-DataMagicによる「データハブ基盤」は新情報系システムの一部に位置付けられる。メインフレームで稼働する勘定系システムと連携し、文字コード変換のほか、各種業務システムとのデータ伝送処理を担う。

勘定系のコード変換を30分で完了 本格稼働後、トラブル発生はゼロ

プロジェクト期間中は、セゾン情報システムズのサポート対応が大きな力になったという。既存システムのデータには文字属性の中にNULLコードが格納されている項目が多数あり、新情報系システムとの連携には文字属性としてNULLコードを変換することが必要だった。これを手作業で改修するとなると膨大な手間がかかる。「それに対し、セゾン情報システムズはHULFT-DataMagicで、NULLコードの変換機能を個別対応で実装してくれました。そのおかげで、プログラムの改修作業を行わずにデータ連携が可能になりました。柔軟な対応力には大変感謝しています」とNTTデータの三浦清志氏は述べる。

プロジェクト全体の進捗にも大きな効果があった。「改修作業に工数を割く必要がなくなったため、新たな業務アプリケーションの開発に専念できました」と話すNTTデータソフィアの杉本智子氏。同社の椎原佳郎氏も「経験に裏打ちされた実績あるノウハウをいくつも提示してくれたため、開発はスムーズに進みました」と続ける。

新情報系システムは2014年11月17日より本番稼働を開始した。その中でデータハブ基盤は勘定系システムと

新情報系システム間のバッチ処理によるデータ伝送を担っている。具体的には勘定系システムのデータはHULFTを介してデータハブ基盤に送られ、文字コード変換などを実施し、目的別データベース群に収容される。銀行ユーザーの業務を支える各種業務システムと目的別データベース群もHULFTを介してつながっており、必要なデータを必要な形式で利用できるようになっている。

現在利用するHULFTのID数は約2万1000、HULFT-DataMagicの定義数は約3万7000におよぶ膨大なものだ。HULFTおよびHULFT-DataMagicを活用した結果、200GBのデータも30分以内でデータ伝送を完了できる。1日のバッチ処理のデータ総量は最大で800GBにのぼることもある。「これだけの大容量でも短時間でデータ伝送を完了できる上、本格稼働後のトラブルの発生はゼロ。バッチ処理の遅延による業務への影響はまったくありません」と亀岡氏は満足感を示す。

今後はデータの抽出・加工が可能なHULFT-DataMagicのメリットを活かし、データハブ基盤の有効活用を図っていく。その1つが、バーゼルIIIに代表される金融規制への対応だ。規制を遵守するための仕組みづくりの一環として、多様なシステムの連携処理にデータハブ基盤を活用する考えだ。データの抽出・加工を自動化する仕組みを整え、既に検証作業を進めているという。りそなグループは新情報系システムを支えるデータハブ基盤の強みを活かし、情報活用インフラの強化とさらなるローコスト運営を推進することで「リテールNo.1」の金融サービスグループを目指す成長戦略を力強く歩む構えだ。

（左から）NTTデータソフィア株式会社 システム開発本部 第六開発部 課長 杉本 智子氏 、株式会社りそなホールディングス IT企画部 グループリーダー 株式会社りそな銀行 システム部 グループリーダー 亀岡 修氏、株式会社りそなホールディングス IT企画部長 株式会社りそな銀行 システム部長 野口 幹夫氏、株式会社りそなホールディングス IT企画部 グループリーダー 株式会社りそな銀行 システム部 グループリーダー 佐々木 隆一氏、NTTデータソフィア株式会社 システム開発本部 第六開発部 プロジェクトマネージャ 椎原 佳郎氏、株式会社NTTデータ 第一金融事業本部 金融ITマネジメント事業部 営業企画統括部 営業企画担当 課長 三浦 清志氏

- HULFT、その他HULFT関連製品は、株式会社セゾン情報システムズの登録商標または商標です。
- UNIXは、The Open Groupの登録商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- 記載されている会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
- 本カタログに記載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示（TM、®）を付記しておりません。

SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.

［お問合せ先］
株式会社 セゾン情報システムズ
HULFTフリーダイヤル 0120-80-8620
※利用時間 9:15～17:45（土・日・祝日および年末年始を除く）

HULFT事業部
〒170-6021 東京都豊島区東池袋3-1-1
サンシャイン60 21F
TEL 03-3988-5301 FAX 03-3980-4830

西日本営業部
〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-5-16
肥後橋MIDビル4F
TEL 06-6479-1151 FAX 06-6479-1152

名古屋営業所
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2-14-19
住友生命名古屋ビル 21F
TEL 052-588-5591 FAX 052-588-5592

九州サテライトオフィス
〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前2-19-27
九勧博多駅前ビル
TEL 092-434-4527 FAX 092-434-4528

HULFT Pte.Ltd.
80 Raffles Place, UOB Plaza 1, #35-07
Singapore 048624
TEL +65 6248 4625 FAX +65 6248 4501

URL http://www.hulft.com/ e-mail hulft@saison.co.jp

このカタログの記載内容は、2015年11月現在のものです。本カタログの記載内容は予告なく変更することがあります。

201511-3000-1